「心臓リハビリテーション外来に通院困難な急性冠症候群患者（急性心筋梗塞又は狭心症）の退院後の生活状況」に関する臨床データの研究利用に関するお願い

研究の概要・背景

心疾患患者における心臓リハビリテーションは、運動耐容能、生活の質、再発予防、長期予後に対する有効性が確立しています。急性期から回復期・維持期と生涯にわたって介入し続けることが必要不可欠な包括的疾患管理プログラムであり、当院でも急性期から心臓リハビリテーションプログラムを展開しています。しかし、退院後も心臓リハビリテーション外来に継続通院できる患者様が非常に少なく効果的なフォローアップが出来ていないのが現状です。

昨今、テレビなどで報道される訃報には「(急性)心不全」という病名をよく耳にします。急性心筋梗塞や狭心症をはじめとした心臓疾患の多くは心不全の原因となります。団塊の世代が 75 歳に達する 2025 年には心不全患者数が 120 万人を超える“心不全パンデミック”を控えていることからも、再発予防や心不全を発症させないような予防医療、自己管理に注目が集まっています。

本研究では心臓リハビリテーション外来へ通院困難となった患者様の、退院後の自己管理状況について調査します。現状の心臓リハビリテーションの効果を評価することで、生活指導をはじめとした心臓リハビリテーションの質を向上させる一助となり、今後心臓リハビリテーションを受ける患者様がより質の高いケアを受けられることが期待できます。

研究の結果は学会や報告会で発表させていただきます。

試料・情報の利用目的・方法（他機関への提供を含む）

年齢、性別、職業、家族構成について、診療録からの情報収集をさせていただきます。また、フォローアップカテーテル入院時にインタビューをさせていただき、インタビュー内容も研究資料とさせていただきます。インタビューはプライバシーが守られ、負担がない環境で実施いたします。

本研究は新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究からの助成を受け、新潟県立看護大学 成人看護学教授 高柳智子の監督・指導のもと行っております。

対象者・期間

急性冠症候群（急性心筋梗塞又は狭心症）にて緊急経皮的冠動脈形成術を受けた患者様で、以下の条件を満たす方を対象とさせていただきます。①入院中心臓リハビリテーションプログラムを満了できたが、心臓リハビリテーション外来への通院が困難な方。②75 歳以下で、インタビューが可能な方③当院循環器内科受診をしている。④本研究への同意と意思がある方です。研究対象者人数は 5 名です。

研究期間は、2018 年 4 月から 2019 年 2 月です。

データ利用のお願いと申し出について

これらの臨床データは通常の診療で記録されたもので、患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。本研究の目的と、臨床データ利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本研究に関するさらなる説明をご希望の方、また、本研究において臨床データの利用を希望されない方は下記問い合わせ窓口にご連絡ください。研究不参加を申し出られたとしても、患者さんが不利益を受けることは一切ありません。

【お問い合わせ先】
長岡赤十字病院　6B 病棟
担当：　看護師　結城真

〒940-2085　新潟県長岡市千秋 2-297-1
電話：0258-28-3600(代)、FAX：0258-28-9000(代)